300号までの歩み

三百号までおよそ二十年。過去の広報紙をめくってみると、いろいろなできごとが思い起こされ歴史の流れを感じます。市としてもこうした過去の動きを十分に見きわめ、よりよい白根市としていくため努力するとともに、広報もより一層親しまれるよう紙面の改善に努めたいと思います。

●広報しろねメモ

〔発行日〕毎月1日15日　〔紙面型〕A4判　〔発行部数〕8,100部　〔県広報コンクール受賞〕（広報紙の部）入選7回。（写真の部）入選3回

創刊号

昭和三十六年六月一日の創刊号で吉沢現市長は「市政執行二周年を迎えるにあたり、〝市政だより〟を発刊することにいたしました。市の広報活動は〝やったこと〟〝やっていること〟〝やりたいこと〟など市の行政全般について、よく市民各位から知っていただき、深いご理解とご協力を得るのが目的であるとともに、あわせて市政に対するご批判とご意見をいただき、よりよき市行政確立の一助といたしたい」と、発刊にあたっての抱負を述べています。

創刊号は「白根市政だより」の名称。紙面型は新聞半ページ分の大きさのタブロイド判で二ページものです。

「本市は目下赤字解消の計画中であることは、みなさんのすでにご承知のとおりでありますが、本年度中に完全に赤字を解消すべく予備費から約千四百万円を更正して赤字解消にふりむけることが決定されました」と当時の市議会臨時会のようすや「白根高校の設立が実現する」などの記事が見受けられます。

こうして市民と市政のかけ橋として産声を上げた市政だよりのこの号が基礎となり、現在の号数が明示されて今月でちょうど三百号を数えるまでになったわけです。

創刊号

36年6月から39年まで

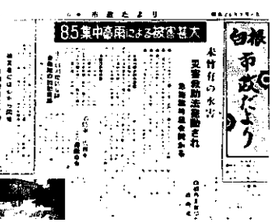
未曽有の八・五水害

自然の猛威まざまざ

この四年間はまさに災害続きでした。

まず三十六年九月号では「8・5集中豪雨による被害甚大　未曽有の水害　災害救助法発動され　急施臨時会開かる」という見出しで「五日午後六時四十分中の口川富月橋附近からの越水が濁流と化し……サイレンによる避難命令が発せられた」「自衛隊一〇〇名、県警機動隊六〇名の救援を求め、杭木の打込み、土のう、石詰俵の流失につとめたが作業は意のごとくならず……このまま放置するならば最悪の状態となり……米俵投入の術なしと、急拠県ならびに食糧事務所など関係機関に対し、政府米の出庫を懇請したが、了解を得られないまま、六日未明ついに二回に亘り政府米（合計四三九俵）の投入がされた」とその夜の恐怖のもようや被害状況、後日、国会でも問題となった政府米の投入状況などを詳細に報じています。

また水害の余韻がさめやらない九月十六日には第二室戸台風が本市を直撃。十月号では「台風市内に猛威をふるう　瞬間最大風速五十米余を記録　死者一重軽傷者三五　被害額十億円余にのぼる」と書かれ、倒壊した庄瀬中学校の写真が被害の生々しさを伝えています。



36年9月号

40年から49年まで

学校統合…市政の最大課題に

三十八年には今度は雪害です「一月二十三日から降り続いた雪が四・四〇米（新飯田地区測定）を越す記録的な豪雪となり白根市は完全に〝白い壁〟にとざされました。被害総額は四億六千万円」と三月号で掲載しています。

「最大沈下一・六㍍も　盛りあがるガス規制の声」として、市内における地盤沈下の状況が三十八年五月号で取り上げられ、同じく七月号でガス規制条例が可決され、都市ガス導入のスタートとなりました。

三十九年六月十六日にはあの新潟地震が――二十日発行の号外見出しは「木橋のほとんどが落ちる　根岸中学校傾く」と被害状況や今後の対策などについて報じられています。

四十年代に入ると、小、中学校の統合問題が市政の上でも最大の課題となりました。

学校統合問題について、四十一年十一月号の紙面では「小、中学校統合計画修正試案を発表」という主見出しで「教育行政の現状と課題　みなさんの卒直な意見を」が脇見出しで「三十六年に作成された統合計画案をもとに修正試案を作成し、みなさんと納得のいくまで話し合うため各地区で設明会を開く」という記事で、統合の必要性が訴えられています。

同じく十二月二十六日には号外が発行され、設明会で出された質問と教育長の答弁が掲載されています。そして四十二年三月号では「白根小蜂潟分校を白根小に吸収統合　三月定例市議会に提案」と記されています。

その後、幾多の曲折を経て白根中、茨曽根中、根岸中三校が統合して五十年に白根第一中が、五十一年には高井小と松橋小が統合して根岸小となりそれぞれ開校。そして五十八年には小林小と戸頭小。大郷小と鷲巻小が統合することになっています。

41年11月号

46年12月号

このほか四十年代の動きとして、交通事故防止が広報紙に取り上げられるようになってきたのも四十年代の前半からです。

市民歌の発表が四十二年の十一月三日文化の日に行われ七百人もの市民が産業厚生会館に集ったと十一月号で大きく取り扱われています。

四十五年十一月号には、千九十九人の市民を対象に実施した「第一回白根市政世論調査」の結果が掲載されています。市の重点施策に対する希望では道路舗装がトップ。次いで減税、老人福祉、工場誘致と続いています。

市役所庁舎が完成し、事務を開始したのが四十六年三月一日から。十日発行の広報紙では写真で庁舎内を紹介。十二月議会で「美しい自然と生活環境にめぐまれた　健康で安全な人間性豊かな社会・文化の創造ある、調和のとれた産業都市」をめざす総合計画基本構想を可決。四十七年には農業振興地域整備計画を策定し、四十九年には都市計画の「用途地域」が決定されました。

50年から55年まで

五十年　▼上水道第四次拡張事業が完了。総事業費十六億七千四百七十三万円　▼新富月橋から国道までのバイパス完成

五十一年　▼加藤清二郎氏が名誉市民に　▼第二次農業振興計画策定

五十二年　▼第二次総合計画基本構想を策定　▼白根郷大圃場整備事業起工式　▼新生産調整本市転作目標三百三㌶が配分

五十三年　▼市役所機構改革八課一所一室に。駐在室を地域生活センターに　▼茨曽根地区公民館、古川保育園完成　▼大通小、根岸保育園、新飯田小、庄瀬地域生活センター、白根小建設工事始まる　▼六・二六水害県災害救助条例の適用を受ける

五十四年　▼市政施行二十周年市民憲章を制定　▼茨曽根保育園、小林地域生活センター建設工事始まる　▼第二回市政世論調査結果まとまる。重点施策に対する希望では社会福祉、道路整備、側溝、下水道整備の順

五十五年　▼総合体育施設建設用地を取得。八万三千百四十一平方㍍　▼臼井公民館、諏訪木保育園、鋳物師児童館、保健センター、茨曽根小、大鷲小の建設工事始まる

広報紙づくりの思い出

岡田市太郎 会計課長

創刊当時はカメラもなくて他の課から借りて取材に。取材はもっぱらバイクでした。

広報紙づくりのむずかしさは、行政と市民の間にあって、常に中立の立場で取材、そして記事を書かなければならない。こんなところに一番苦労したと記憶にあります。

生原明人 青年教育センター次長

十年と六か月広報紙づくりにたずさわってきましたが、広報紙に取り上げたことが市民に理解され、そして市政に生かされたときは感無量の思いでした。これだけ情報媒体が多くなっている今日では、広報紙づくりもなかなか厳しいものがあります。

30日奮戦記

企画・検討　月二回、前号をもとに反省点を検討。合わせて次号の企画が練られる。

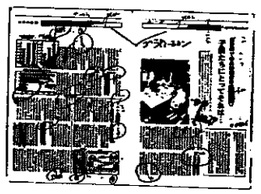
計画表作成　企画会議で1か月の計画が練られそれに基づいて仕事を進める。1年中、1日号と15日号が追いかけっこだ。

1日発行	作業内容	15日発行
1日	1日・15日号発送	15日
2～4日	企画・検討会議 計画表作成	16～18日
5～15日	取材	19～29日
16～20日	レイアウト、原稿書き 印刷所出し	30～4日
25～27日	校　正	9～11日
28～30日	印　刷	12～14日

取材・写真撮影　取材は休日、夜間を問わずに。心よく取材に応じてもらったときはホット一安心。

レイアウト・原稿書き　締め切り日がせまる。このころになると気ばかりあせり思うように記事が書けず苦悩の連続。

校正　誤字・脱字がないか3回にわたって校正され、その後印刷される。



発送　刷り上がった広報紙は市の職員により、嘱託員に届けられる。